公益社団法人日本都市計画学会 都市計画報告集 No.19, 2020 年 8 月
Reports of the City Planning Institute of Japan, No.19, August, 2020

酒蔵建築に関する立地と活用の実態

－新潟県下越・佐渡地方を対象として－

Location and utilization of sake brewery architecture
:A case of Kaetsu and Sado regions of Niigata prefecture

中野 稜子*・岡崎 篤行**
Ryoko Nakano *・Atsuyuki Okazaki**

Annual consumption of sake and the number of production licenses are on the decline. This could cause a loss of regional characteristics of sake breweries. On the other hand, the movement of utilizing sake brewery architectures as tourism destinations can been seen in recent years, leading to the revitalization of the region. Accordingly, it is necessary to conduct a comprehensive survey to clarify the status of remaining breweries in Japan and the actual conditions of utilization of sake brewery architectures. This paper targeted Niigata Prefecture, which has the largest number of sake breweries in the nation, as a first case study.

Keywords: Sake brewery, Utilization,Tourism,Niigata,Sado
酒蔵、活用、観光、新潟、佐渡

1 研究の背景・位置づけ・目的

酒蔵は複数の酒蔵建築[1]と庭園等の空間で構成され、広大な敷地を持つ(図 1)。また、近年は「酒蔵ツーリズム[2]」 が注目され、酒蔵を観光資源として活用する動きもある。既往研究には全国的な酒蔵の構造や地域的特徴を述べた研究[1]、一部の地域での景観や用途の変遷に着目した研究[2]があるが全酒蔵を網羅してはいない。そこで、本研究では、酒蔵数が全国最多で酒に関する取り組みも盛んな新潟県における酒蔵の網羅的研究の一環として、下越・佐渡地方を対象に酒蔵建築に関する立地と活用の実態を明らかにすることを目的とする。

2 対象地概要（図2）

新潟の清酒は地酒ブームを機に注目され、平成 8 年頃に生産量最盛期を迎えた。昭和 28 年設立の新潟県酒造組合(以下、組合)には、昭和 39 年に 126 場が加盟していたと記録がある。しかし現在では、89 場(清酒製造業 88、焼酎業 1)まで減少している。組合では「新潟清酒[3]」のブランドを持ち、毎年 3 月に開催される「にいがた酒の陣」は県内の酒蔵が集結する一大イベントである。また、新潟大学では日本酒学センター[4]が設立された。対象地の下越地方には 28 場[5]、佐渡地方には 5 場が存在する。

3 調査・分析方法

組合に加盟している下越・佐渡地方の全 33 場を対象とし、調査許可を得た 31 場に対して現地踏査・ヒアリングを行う。立地に関しては歴史的建造物群の残存状況調査[3]、終戦直後の航空写真を基に、酒蔵の位置、主要道路との関係より分析を行う(図 3)。活用実態に関しては活用する場所、内容、用途変更の有無に着目して分析を行う。

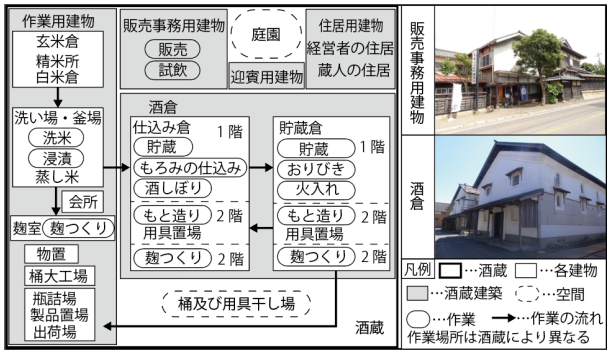

図1 酒蔵の構成

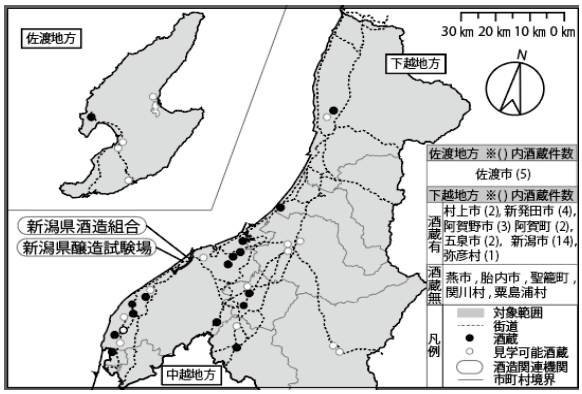

図2 下越・佐渡地方における酒蔵及び酒造関連施設

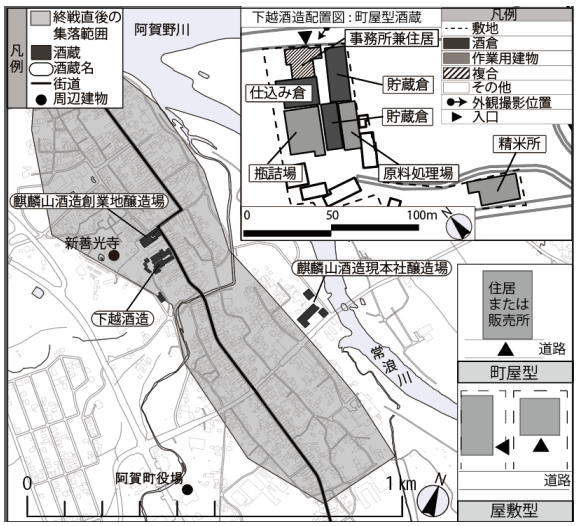

図3 酒蔵の立地分析方法

* 非会員 株式会社福田組（Fukuda Corporation.）
**正会員 新潟大学工学部建築学プログラム（Architecture Program, Faculty of Engineering, Niigata Univ.）

4　酒蔵建築の立地

4-1　酒蔵と集落

31 場中 27 場が終戦直後の集落範囲の中に立地し、17 場は町場に、12 場は村落に立地している。町場と村落で分布の大きな偏りは見られなかった。2 場は終戦直後、集落のなかった場所に新たに酒蔵が出来ていた。

4-2　酒蔵と道路

酒蔵の前面道路に着目すると、23 場が主要道路沿い（表 1）に立地している。そのうち 9 場は街道に面している。

4-3　酒蔵建築の構成

酒倉、作業用建物、販売事務用建物は全ての酒蔵に存在する。住居用建物は 26 場にあり、迎賓用建物は 1 場のみである。住居、販売事務用建物の配置に着目すると、町屋型の形態をとるものと、屋敷型の形態をとるものとが存在した。町家型は 7 場あり、5 場は町場に、2 場は村落に存在し、町場が多くなっている。屋敷型は 16 場の内 7 場が町場、9 場が村落に立地し、町屋型と異なり町場と村落とで大きな差はない。なお、10 場は住居及び販売事務用建物のない酒蔵と、それらの元の形態が増改築により判別できない酒蔵であった。

5　酒蔵建築の活用実態（図 4）

31 場のうち 17 場が酒蔵を一般公開している。そのうち用途変更を行わずに生産部門の建物を公開する酒蔵見学を実施している酒蔵が 15 場、新設の展示場を公開する酒蔵が 1 場、一時的に建物の一部または全部を用途変更して活用する酒蔵は 8 場あった。常時用途変更をして活用する際は 3 場が飲食、4 場が展示場への転用であった[6]。常時用途変更を伴う活用では住居、迎賓用建物の活用が見られた。比較的新しい設備の酒蔵では見学用の小窓の設置等、公開を前提とした設計が行われている場合があった。

6　結論

(1) 酒蔵は集落内に立地する傾向があり、町場にも村落にも分布している。前面道路に着目すると、主要道路沿いに立地する傾向がある。

(2) 酒蔵建築の用途について、迎賓用建物が残る酒蔵は 1 場のみで、その他の酒蔵建築はほとんどすべての酒蔵に見られた。住居及び販売事務用建物の配置形態は屋敷型が半数以上を占める。町屋型は主に町場に、屋敷型は村落だけでなく町場にも広く分布している。

(3) 酒蔵の活用は半数が酒蔵を一般公開しており、建物の用途変更を行わない酒蔵見学が最も多かった。

謝辞

本研究に携わり、ご協力いただいた新潟大学経済科学部/日本酒学センターの渡辺英雄助手、酒蔵関係者の皆様にここの場を借りて感謝申し上げます。

補注

(1) 本研究では、直接生産に関わる「酒倉」、「作業用建物」と直接生産に関わらない「販売用建物」、「住居用建物」、「迎賓用建物」の 5 つを酒蔵建築と総称する。
(2) 酒蔵を巡り、その酒の育まれた土地を楽しむニューツーリズムの一つ。
(3) 地域団体商標制度により商標登録された新潟県酒造組合加盟企業のみ表示できる商品名称。
(4) 産官学連携協定に基づき開設され、日本酒に係る「教育、研究、情報発信、国際交流」に関する事業を展開。
(5) 28 場中 1 場は登録有形文化財を含む。
(6) 1 場の酒蔵で複数の活用を行っており、重複している場合がある。

参考文献

1) 山口昭三(2009),「日本の酒蔵」, (財) 九州大学出版会
2) 髙原麻由子, 大谷孝彦, 萬田隆, 杉浦徳利, (2011),「西条酒蔵通りの景観イメージと景観評価・地域性に基づく景観構成の研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1, pp. 335-336
3) 佐藤憲明, 岡崎篤行, (2006), 「新潟県岩船郡における歴史的建造物群の残存状況と外観特性 -下越地方の街道沿いを対象として（その 1）-」, 日本建築学会計画系論文集 No. 610, pp. 141-146

表 1　酒蔵の立地及び建物構成

番号	集落属性	航空写真による判別	前面道路※1	酒蔵建築棟数※2 生産部門 A 酒倉	B 作業	管理部門 C 販売事務	D 住居	E 迎賓	C,D 部分配置形態※3			公開活動 () 内公開部分の用途 用途変更無 酒蔵見学	展示	一時的有 イベント	用途変更有 飲食	展示
1	町場	集落内部	②	2	6	1	0	0			×	○(A,B)	×	×	×	○(B)
2	町場	集落内部	③	3	4[3]	1(1)	2(1)	0	町			×	×	×	×	×
3	町場	集落内部	②	9(2)	6	1	1	1			×	×	×	○(広場)	○(E)	○(A)
4	村落	集落外れ	×	4	2	3	0	0			×	○(A,B)	○	○(C)	×	×
5	町場	集落内部	×	4(3)	2(2)	1(1)	2(2)	0		屋		○(A,B)	×	○(A)	○(A)	×
6	町場	集落内部	②	1	1[1]	1	5	0		屋		○(A,B)	×	○(A,B)	×	×
7	町場	集落内部	②	2(2)	6(3)	1(1)	1	0		屋		×	×	×	×	×
8	村落	集落外れ	×	3(1)	13(5)	1	6(1)	0		屋		×	×	×	×	×
9	町場	集落内部	①	5(3)	4(2)	1	1	0			×	○(A,B)	×	×	×	×
10	町場	集落内部	①	3	3	1	1	0	町			○(A,B)	×	○(広場)	×	×
11	村落	集落内部	②	1	12	1	2	0		屋		○(A,B)	×	○(B)	×	×
12	町場	集落内部	①	3(2)	3	1	1	0	町			×	×	×	×	×
13	新規	集落外れ	×	3	2	1	4	0			×	×	×	×	×	×
14	町場	集落内部	×	2(2)	3	1	1	0		屋		○(A,B)	×	×	○(D)	○(B)
15	村落	集落内部	×	3	6	1	2	0		屋		×	×	×	×	×
16	町場	集落内部	①	2	1	1	1	0			×	○(A,B)	×	×	×	×
17	町場	集落内部	①	2(2)	2	1	1	0		屋		×	×	×	×	×
18	村落	集落内部	①	3(1)	2	1	1	0		屋		×	×	×	×	×
19	村落	集落内部	×	2	4	1	1	0		屋		×	×	×	×	×
20	町場	集落内部	×	2	3(1)	1(1)	1(1)	0	町			×	×	×	×	×
21	町場	集落内部	②	2	4	1	1	0			×	×	×	×	×	×
22	村落	集落内部	①	1	3(1)	1	1	0		屋		○(A,B)	×		×	×
23	村落	集落内部	②	4(2)	4(1)	1	1	0			×	×	×	○(A)	×	×
24	村落	集落内部	①	1	3	1	1	0	町			×	×	×	×	×
25	村落	集落内部	①	4(2)	10	1	1	0		屋		○(A,B)	×	○(A)	×	×
26	町場	集落内部	②	1	5	2	3	0		屋		×	×	×	×	×
27	町場	集落内部	②	2	3	2	0	0			×	○(A,B)	×	×	×	×
28	村落	集落内部	②	2	3	1	1	0		屋		○(A,B)	×	×	×	×
29	新規	集落外れ	②	2	4	2	0	0			×	○(A,B)	×	×	×	×
30	村落	集落内部	②	3	13	1	0	0	町			○(A,B)	×	×	×	×
31	町場	集落内部	②	1(1)[1]	2(1)[2]	1	1	0		屋		×	×	×	×	×
合計									6	15	10	15	1	8	3	3

【凡例】○: 有 ×: なし（下記は除く）
【補注】※1 本研究では、次のいずれかを満たす道路を主要道路とし、それ以外は × と表記する。
①街道
②終戦直後の航空写真において集落の中心を通る道路
③ヒアリングにより重要度の高い道路
※2() は歴件数、[] は創業地外を示す。また酒蔵建築には、登録有形文化財（店舗兼主屋 1 棟、酒蔵 2 棟）が含まれる。
※3 町屋型を町、屋敷型を屋、C,D 部分がないもしくは改築等により判別できないものを × とする。

酒蔵見学

展示室

カフェ

図 4　一般公開事例